

生物多様性さっぽろビジョン（案）に対する ご意見の概要と市の考え方について

「生物多様性さっぽろビジョン（案）」について、平成 24 年 12 月 25 日から平成 25 年 1 月 31 日までの約 1 ヶ月間、市民の皆様からの意見募集を実施いたしました。

たくさんのご意見をいただき、誠にありがとうございました。いただいたご意見を参考に、ビジョン案を一部修正するとともに、今後ビジョンを推進していく際の参考にさせていただきます。

本資料にて、いただいた全てのご意見の概要と、それに対する札幌市の考え方をご報告いたします。今後とも、札幌市の生物多様性保全の推進にあたり、ご理解・ご協力をお願いいたします。

【該当ページ】

- 意見募集実施の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
- 意見の概要とそれに対する札幌市の考え方・・・・・・・・ P3
- 意見に基づくビジョン案の修正点・・・・・・・・ P29

平成 25 年（2013 年）3 月
札 幌 市

意見募集実施の概要

1 実施期間

平成 24 年 12 月 25 日（火）～平成 25 年 1 月 31 日（木）：38 日間

2 意見募集方法

電子メール、郵送、FAX、持参

3 資料配布・閲覧場所

- (1) 札幌市役所本庁舎（中央区北 1 条西 2 丁目）
2 階 行政情報課 12 階 環境対策課（環境共生推進担当）
- (2) 各区役所総務企画課広聴係
- (3) 各まちづくりセンター
- (4) 札幌市環境プラザ（北区北 8 条西 3 丁目 札幌エルプラザ 2 階）
- (5) ホームページによる閲覧

<http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/keihatsu/public-comment.html>

4 意見提出者概要

提出者数：27 名

件数：133 件

(1) 提出方法別提出者数

提出手段	人数
電子メール	18 名
郵送	5 名
FAX	3 名
持参	1 名
合計	27 名

(2) 項目別意見件数

○ビジョンの修正に係る意見（75件）

項目	意見件数
第1章 はじめに	10件
第2章 ビジョン策定にあたって	4件
第3章 札幌における生物多様性の現状と課題	17件
第4章 推進する施策	13件
第5章 ビジョンの推進に向けて	12件
資料編	4件
全般について	15件

○ビジョンの実行に向けた意見（58件）

項目	意見件数
施策の展開・行動計画について	9件
教育・普及啓発について	15件
市民参加型モニタリング・生物多様性マップについて	5件
推進体制について	12件
まちづくりについて	4件
ライフスタイルの見直しについて	6件
その他意見	7件

意見の概要とそれに対する札幌市の考え方

意見の概要	市の考え方
第1章 はじめに	
1 生物多様性とは	
生物多様性の危機や影響に関する説明について（3件）	
<p>人類存亡の危機感が伝わってこない。 生物多様性の定義や、生物多様性を維持又は喪失することによる効果、影響、問題などについて、今までどこでも使っている言葉ではなく、札幌市の言葉で書いて欲しい。（2件）</p>	<p>本ビジョンでは、札幌市の事例を交えて生物多様性の定義や現状等を述べるよう工夫するとともに、「札幌の活動が世界の生物多様性に与える影響」を十分認識した上で、札幌市が生物多様性の保全に取り組むにあたっての姿勢及び考え方について、第1章「策定趣旨」、「理念」及び第4章「基本認識」などに記載しています。</p> <p>また、生物多様性については、未知の分野が多くありますが、世界の生物多様性が人類の存亡にも関わる危機にあることを踏まえて、第5章では、生物多様性に配慮したライフスタイルへの転換を明記するなど、今すぐに始めるべき行動の例を示しています。</p>
<p>生物多様性の危機の多くは私たちの活動によるものであることを、具体例を示して提示すべき。とりわけ都市である札幌は、経済活動が及ぼす生物多様性への影響を、強くアピールすべきではないか。</p>	<p>本市としましても都市の経済活動が市外の生物多様性に及ぼす影響を重要視しており、本ビジョンにおいても、そのことを踏まえた理念、目標等を掲げているところです。また、7ページに、私たちの生活が世界の生物多様性に与える影響について、具体例を挙げて記載しております。</p>
用語について（2件）	
<p>生態系サービスという言葉は、一般的にはとても違和感がある言葉なので、解説するページを補足してはどうか。</p>	<p>【修正】 第1章（P5）に生態系サービスについて解説しています。このページの記載内容が生態系サービスの説明である事が分かるように文言を修正します。</p>
<p>『緑のダム』という言葉は、脱ダムの流れで主流になったと思うが、生物多様性の説明では不要ではないか？水源涵養保安林として紹介すべき。</p>	<p>【修正】 森林の機能が分かるように「緑のダム」という表現を改め、「水源の森」という表現に修正します。</p>

意見の概要	市の考え方
3 理念	
理念について（5件）	
<p>ビジョン策定なのに、『ビジョン』ではなく『理念』としたのは何か特別な意味があるのか。『理念』はビジョン追求における行動規範のようなものというイメージがある。</p>	<p>2050年を見据えた長期計画であることから、今回策定する計画全体を『ビジョン』とし、『理念』として生物多様性に取り組む基本的な考え方を示しています。</p>
<p>理念と目標の違いが分かりにくい。目標は達成した時に判別出来るような『標』になっていた方が良い。</p>	<p>本ビジョンは生物多様性に関する取組の方向性を示す長期的な指針として策定するものであり、本ビジョンにおける目標は、理念に掲げた生物多様性の視点から見た目指す札幌の姿を、より具体的に示したものとなっています。また、本ビジョンの進捗状況は、各施策の柱ごとに設定した成果指標を用いて確認・評価することとし、2020年を目途にその取組状況や社会情勢を勘案して見直しを行うこととしております（P76）。</p>
<p>「都市が世界の生物多様性に与えている影響を認識し」には違和感がある。「札幌が北海道や世界の生物多様性に」又は「都市での人の営みが」としてはどうか。</p>	<p>【修正】 いただいたご意見のとおり、「都市が世界の生物多様性に与えている影響を認識し」を、「札幌が北海道や世界の生物多様性に与えている影響を認識し」に修正します。</p>
<p>「都市が世界の生物多様性に与えている影響」について、具体的事例をもっと盛り込む方が市民に浸透しやすい。反対に都市故に形づくられてきた生物多様性を保全するメリットも、具体例を挙げて述べるといい。</p>	<p>本書 P7 に「世界の生物多様性に影響を与える私たちの生活」として具体例を記載しています。また、いただいたご意見に関しては今後の普及啓発の参考とさせていただきます。</p>
<p>生態系に沿ったエリアにおける、行政間（市町村や国の機関と）の連携、リーダーシップについて理念で触れてほしい。</p>	<p>理念に関しては、全主体が取組を行う際のベースとなる考えを示すものであるため、行政の役割である他市町村や国との連携、リーダーシップに関しては第5章「各主体の役割」に記載しております。</p>

意見の概要	市の考え方
第2章 ビジョン策定にあたって	
1 ビジョンの位置づけ	
他の計画に対して強制力を持つことを明記すべき（1件）	
<p>環境基本計画の中の個別の計画という位置づけではなく、札幌市の様々な計画や事業すべてに強制力のあるビジョンでなければならないと明記すべき。一次産業の育成はもちろん、消費者が地産地消の消費行動を優先することが地域経済を支えることにつながり、これが生物多様性の保持につながることをもっと強調すべき。</p>	<p>本ビジョンは生物多様性に関する取組の方向性を示す長期的な指針として策定するものです。生物多様性の取組は生活や事業活動のあらゆる場面に関わるため、全ての行政分野において、本ビジョンの趣旨を尊重して生物多様性の保全及び持続可能な利用への配慮に努めることとし、本ビジョンとの整合を図るものとしています（P10）。</p> <p>また、地産地消については、第5章「ライフスタイルの見直し」の中で取り上げ、その意義や生物多様性の保全につながることを説明しております。</p>
4 ゾーンの設定	
第2章や第3章のゾーンの地図に地名を入れた方がよい（3件）	
<p>地図に区名や代表的な地名などを記入した方が分かりやすい。読者に、自分が住んでいる場所に関する生物多様性という観点からの意味づけを認識してもらえる。（3件）</p>	<p>【修正】 区名などを記載した地図を資料編に掲載します。なお、本編では図の見やすさを考慮し、市役所、各スポット及び周辺市町村の記載に留めています。</p>
第3章 札幌市における生物多様性の現状と課題	
1 自然環境	
種の多様性について（2件）	
<p>もう少し希少種と外来種を詳しく載せたほうが良い。</p>	<p>希少種、外来種の説明については、文字数、レイアウト等に配慮しながら極力動植物の例示や写真での説明を行うようにしています。</p> <p>より詳細な情報に関しては、ビジョン策定後に「希少種配慮ガイドライン」や「市民実践ハンドブック」等を作成することとしております。</p>

意見の概要		市の考え方
	カムバックサーモン運動について、「自然産卵による野生のサケも安定的に見られます」の表現は正確と言えるのだろうか。	札幌市豊平川さけ科学館の調査等によると、自然産卵による野生のサケが安定的に確認されておりますので、現行の表現で問題はないと認識しています。
外来種について（3件）		
	外来種に対する認識は、まだ一般市民に浸透していない一方、駆除すればいいと簡単に発言する市民も多い。外来種が生態系に与えるインパクトの実例や、実際に駆除に関わる人間がどのような感慨を持ちながら従事しているか、駆除事業従事者の声を交えて記載するといふ。	本書 P42 において、侵略的外来種の説明や外来種放逸の危険性について、セイヨウオオマルハナバチの事例紹介を交えながら記載しています。 いただいたご意見については今後の普及啓発の参考とさせていただきます。
	外来種について、単に外来種としてではなく、生態系に被害を及ぼす恐れの高い侵略的外来生物の定着を防ぐ、もしくは生息域の拡大を防ぐなどと具体的に記述した方が良い。	【修正】 本市としても、外来種の中には、問題があるものもないものがあると認識しており、概要版について、ご指摘の点を追記します。 なお、本書では P41 等で説明を記載しております。
	河川の生態系に影響を及ぼすニセアカシア（街路樹や公園などに多数導入）には触れないのか。	生態系等に影響を及ぼす外来種は多数報告されておりますが、特定外来生物のほか、要注意外来生物のように国においても、まだ情報の集積や総合的な検討が必要とされているものもあり、現在、環境省が侵略的外来種リストの作成や対応に係る情報等を整理・検討中です。また、外来種の中には、私たちの生活に密接に関わっているものも多くあります。このような現状を踏まえ、本ビジョンでは、どのような外来種に問題があるのかということについて、個々に取り上げるのではなく、侵略的外来種として包括的に取り扱い、その原則的な対応等を記載しております。

意見の概要	市の考え方
<p>各ゾーンの課題について（４件）</p> <p>「山地ゾーン」では生物多様性の損失が急速に劣化する状況に陥る危険があると思う。</p> <p>「市街地ゾーン」では被緑地帯の減少という課題があるが、この対策としては市街地規制や串団子型コンパクトシティの必要性等が挙げられる。</p> <p>「低地ゾーン」に見られる欧米的景観は、自然破壊の結果で緑地帯の希求といわれている。</p> <p>「各ゾーンを繋ぐ生態系」には緩衝ゾーンとしての役割があり、都市周辺の農業、酪農地帯、里山の配置が重要であると思う。これには、串団子型コンパクトシティの考え方が有効と考える。</p>	<p>いただいたご意見については、今後施策を展開していく際の参考とさせていただきます。</p>
<p>動植物の種数の表の分類について（１件）</p> <p>30 ページの表 3、89 ページ、96 ページ、97 ページの表は「両生類」「爬虫類」を区分して欲しい。</p>	<p>【修正】 ご意見のとおり、本書 30 ページ、89 ページを修正します。ただし 96 ページ、97 ページに関しては、「両生類・爬虫類」として学識経験者へ聞き取りを行ったため、区分しての表記はできません。</p>
<p>2 社会環境</p>	
<p>(1) 科学的知見の蓄積について（１件）</p>	
<p>課題に“データベースなどのしくみが求められる”とあるが、生物多様性評価地図（環境省 生物多様性地球戦略企画室）から札幌市のエリアをピックアップし、本ビジョンに積極的に取り入れてはどうか。</p>	<p>データベースのしくみについては、市内生息動植物のモニタリング調査や生物多様性マップの作成を行う中で検討していく課題として認識しております。</p> <p>いただいたご意見に関しましては、そのような施策を展開していく際の参考にさせていただきます。</p>

意見の概要	市の考え方
(3) 札幌市の施策について（2件）	
<p>札幌市の施策のページはあまりにお粗末。円山動物園のオオカミやシロクマは身近な自然とは思えないし、希少種を守るだけでなくが生物多様性の維持と誤解をまねくと思う。札幌市の施策ではないが、むしろ増えすぎたエゾシカの被害や鉛弾によるオジロワシなどの鉛中毒の問題をとりあげたほうがよい。</p>	<p>本ページでは、札幌市が現在行っている施策に関して現状と課題を記載しております。図22 に関しては、その一例として「都市環境林」や「さっぽろエコメンバー制度」と併せて「円山動物園」の取組を紹介しているものです。</p>
<p>札幌市内にある生物の施設をもっとピックアップして、紹介してほしい。</p>	<p>【修正】 ご意見を受け、札幌市内にある生物多様性保全に関連のある施設を資料編で紹介することとします。</p>
(4) 市民・事業者の意識と取り組みについて（1件）	
<p>生物多様性の認知度は市民、事業者ともに低く、保全への取り組みも低いと述べているが、どの部局あるいは部局を超えて、どうすればよいのか。</p>	<p>生物多様性に対する理解の促進や多様な主体の協働については、第4章 施策の柱1、2に掲げ、全庁的に連携して取り組んでまいります。 想定される取組に関しては、P59-60 に記載しております。</p>
(5) 多様な主体の連携について（2件）	
<p>「必要があります」と述べるだけでなく、札幌市がイニシアティブをとって呼びかけるということが必要ではないか。</p>	<p>第5章「各主体の役割」に札幌市の役割として、「市民や事業者による環境配慮活動の支援・コーディネート」や「多様な主体による対話の促進」を記載しており、ビジョン策定後は、積極的な普及啓発や市民参加型プログラムの実施などにより多様な主体の参加を促してまいります。</p>
<p>生き物調査や自然観察会だけが多様な主体ではないはず。むしろ、企業や産業界との連携が求められている。無駄な公共事業の見直し、おのずと個人のライフスタイルの見直しに結びついてくるのではないか。</p>	<p>本市としましても、行政、企業、市民等が一体となって生物多様性の保全に取り組んでまいりたいと考えております。P47 に掲載している「自然観察会」「生き物調査」「自然体験」は企業、団体、市民等との連携事例として紹介しているものです。</p>

意見の概要	市の考え方
3 課題の整理	
表5の表題について（1件）	
表頭が「課題」となっているが、むしろ課題解決のために「必要とされる方策」ではないか。	各項目に関して、今後対策を行わなければならない取組を含めて「課題」として記載しています。
第4章 推進する施策	
2 目標	
目標について（3件）	
目標が抽象すぎる。目標を50年に設定したのであれば、中期目標の内容もしっかりたてる必要がある。	2050年目標の達成に向けて、本ビジョンでは、進行管理の指標として2020年までの数値目標を掲げています。
目標とする2050年までにどのような事業を展開し、どのような姿になっているのかといった、具体的な目標が書かれていない。戦略とか計画ならば、そのような内容が書かれるべきだと思う。	本ビジョンでは、理念や目標などの2050年までの長期的な視点を持ちながら、各主体の役割や取り組むべき行動について述べています。進捗状況については、各施策の柱ごとに設定した成果指標を用いて確認・評価することとし、2020年を目途にその取組状況や社会情勢を勘案してビジョンを見直すこととしています。
目標がいまいち生物と絡んでいないのではないか。	全ての人間活動は、直接・間接的に生態系に影響を与えているため、直接的な自然環境の保全とともに、ライフスタイルの見直しについても目標を掲げています。
3 施策の方向性	
施策が分かりづらい（3件）	
後半の具体的な札幌市の施策について分かりづらかった。特に、4つの施策の柱と3つの目標との繋がりがどの様に相互関係があるのかわからない。	3つの目標に対して、それぞれ4つの施策の柱を組み合わせ取組んでいきます。また、各柱の中で挙げている個々の施策との相互関係については概要版P11に記載しております。

意見の概要		市の考え方
	<p>今後の具体的な施策については漠然とした印象があり、見晴しが悪いように感じる。</p> <p>何を一番にやりたいのかももう少し具体的にしたい方がいい。(2件)</p>	<p>できるところから速やかに「実践行動(施策の柱3、4)」に取り組みつつ、並行して「土台形成(施策の柱1、2)」を進めていくことで、より効果的な「実践行動」の推進を図っていくこととしております。</p> <p>また、より詳細な具体取組については、札幌市全体の取組状況や、ビジョン全体の進捗状況を定期的に確認していく中で、効果的な取組や課題などを検証し、実行計画の策定を検討してまいります。</p>
「協働する」について(3件)		
	<p>「協働」は「実践」行動のみではなく、政策立案や評価を含むすべての段階で求められるので、むしろ「施策を展開する上での共通の基本認識」か「理念」などに盛り込むべき「言葉」なのではないか。</p>	<p>本市としましても、「協働」は政策立案や評価を含むすべての段階で求められるものと認識しております。そのため、ビジョンの体系図で示しているように、「協働」は生物多様性保全に関する様々な取組を行う上での「土台形成」と位置づけております。</p>
	<p>「生物多様性保全の実践行動に皆で取り組む」は「協働」ではなく「保全」もしくは「実践」がポイントなので、柱名を変えてはどうか。</p>	<p>【修正】</p> <p>施策の柱2「協働する」は、生物多様性の保全に取り組む際には各主体が協働して行うという視点を強調したいと考えております。ご指摘を踏まえ、ご指摘の箇所を「生物多様性保全に皆で取り組む」と修正いたします。</p>
	<p>「連携の仕組みづくり」の中に、流域連携等をイメージした地域ネットワーク推進も方向性として必要ではないか。</p>	<p>施策の柱2「協働する」は、生物多様性の保全や持続可能な利用に向けた意識・行動を社会全体に広げていくことを目指しています。また、周辺自治体等との連携については15ページに記載しています。いただいたご意見については、今後の取組の中で参考とさせていただきます。</p>

意見の概要	市の考え方
「継承する」について（２件）	
札幌市には、広大な市有林があるが、生物多様性が見地から市有林に関する政策を打ち出す必要がある。ビジョンになぜそれができないのか。	本ビジョンでは、ゾーン毎に森林や生態系のレベルで課題や取組の方向性を整理しています。市有林を含め他のものについても、このゾーンごとの方向性を踏まえ、施策を検討してまいります。
歴史的文化的資産の継承について、アイヌ民族の方などと言葉として入れる方が良いと思う。	【修正】歴史的文化的資産の一例として、古くから北海道の自然に育まれてきたアイヌ文化について追記します。
「活用する」について（１件）	
「環境に配慮した消費行動の推進」は、一般消費者だけでなく、製造業などの事業者も材料や資材の調達という部分で該当している。事業者への理解を促すために記述を追加すべき。	【修正】ご指摘のとおり、環境に配慮した消費行動を行うべき主体には事業者等も含まれます。環境に配慮した消費行動は、市民・事業者・札幌市の全ての主体が行うことを追記します。
ビジョンの体系図について（１件）	
少し見づらくてパッと見で分かりづらい。矢印の形を変えてみたりしたらよい。	【修正】本書 P66、概要版 P12 の体系図を修正します。
第５章 ビジョンの推進に向けて	
１ 本ビジョンの進め方	
市民参加型プログラムについて（１件）	
市民参加型の姿はマニアだけでなく、全ての市民が参加できることをもっとアピールできる。ここが一番重要な人との関わりだと思うので、概要版でも強調できる内容、表現にすべき。（町内会などコミュニティの重要性をもっと強調してほしい）札幌市がこのような動きができれば、他の市町村にも大きく波及してくると思う。	【修正】市民参加型プログラムの説明に、子どもから大人まで誰もが参加できること、町内会なども連携を図りながら取り組むことを追記します。

意見の概要	市の考え方
ライフスタイルの見直しについて（2件）	
<p>都市だからこそできる生物多様性保全参画を示唆したことは評価できる。TEEB や CSR との関連性をもっと絡めて、事業者や都市生活者だからこそできる保全参画の具体例を示す必要がある。都市では、原生自然の復元をめざすことだけが参画の手法ではないはず。</p>	<p>都市における生物多様性保全参画に関しては、第5章において、「ライフスタイルの見直し」や「各主体の役割」の中で事業者や市民の行動例を挙げており、実践行動の促進に向けて普及啓発等に努めていきたいと考えております。いただいたご意見については今後施策を展開していく際の参考とさせていただきます。</p>
<p>ビジョンでは「身近な自然」をどう位置付けているのか。「身近な自然」が車で出かけるような場所だと思われているから、「自然とのふれあい」がなかなか大きく広がらないのではないかと。私が考える「身近な自然」は、家の玄関を開けたときから始まる。観察会も大事だが、より市民にアピールするためには、毎日、生物多様性に関わっている認識をさせるような文言など、「身近な自然」の定義を札幌市なりに考えないと広まらないし、継続されないと思う。</p>	<p>【修正】 ご指摘のとおり、市街地の中の自然も含めて身近な自然と位置付けており、そのような身近な自然に目を向けていただくためのきっかけとして、自然観察や自然体験の機会を増やすことも必要であると考えています。このことについて説明を追記します。</p>
2 各主体の役割	
強制はいけない（2件）	
<p>生物多様性との関わり方について市民に具体的に何をしようという事を強制すると、押しつけになってしまうのではないかと。内容自体は良いと思うが、人には様々な価値観があり、それを強制してはいけないと思う。</p>	<p>第5章では、ライフスタイルの見直しなどできるところから速やかに行動を実践していくことを呼び掛けており、読み手の方にどのような取組を実践すればよいかをより理解していただけるよう、主な役割と行動の例を示しています。ビジョンの推進にあたっては、各主体の理解をいただく事に留意して取り組んでまいります。</p>
<p>森のリラクゼーション効果による癒しなど、生物多様性を守る事が、自分の利益になると書いてあった方が目標に向けて意欲がわくのではないかと。</p>	<p>生物多様性と市民生活との関わりについては、第1章で、生態系サービスの面から記載しております。いただいたご意見は、今後の普及啓発の参考とさせていただきます。</p>

意見の概要	市の考え方
札幌市の役割と行動例について（2件）	
札幌市としての役割と行動の例示が具体的にない。札幌市としてのスタンスをしっかりと述べるべき。可能な限り札幌市のアクションとして例示すべき。	札幌市の役割と行動例について、より具体的な内容は施策の柱1～4の想定される取組に記載しております。 さらに具体的な施策については、今後、個別の計画やアクションプランの中で検討してまいります。
「札幌市」の項目のリード文で書かれていること（国や北海道、周辺自治体～との連携）を、ひとつの項目として明確に記載するのがよい	国や北海道、周辺自治体などとの連携は、リード文以下に示す行動例の各項目全てに関連することであるため、札幌市の役割としてリード文での説明としています。
3 進行管理	
市役所内の推進体制について（2件）	
各部門計画との整合性を図っていくためには、都市計画、農業関係、水環境や河川環境、さらに教育関係など、札幌市役所内の各担当部局との協働が重要だと思うが、この辺のことがまったく触れられていない。各部局が、どう連携、協働するか積極的に提言してほしい。（2件）	本ビジョンの策定により、さまざまな計画や事業に生物多様性の視点を取り込んでまいります。また、P76「進行管理」に記載のとおり、札幌市環境マネジメントシステムの活用などにより、各分野における生物多様性に関する取組の推進状況を確認しながら市役所全体で効果的な取組みの推進を図ることとしております。
表8 進行管理の指標について（3件）	
進行管理でも、マップの作成を加えて、市民に本当に広がってきているか、いないかを目に見えてわかるような形にしてほしい	表8「進行管理の指標」では、施策や事業などの効果である成果指標（アウトカム指標）を挙げており、生物多様性マップの作成については、表7の「重点的に進める取組」に記載しています。 また、マップの作成に関しては、市民参加型で行いながら、その参加状況も含めて進捗状況の情報発信に努めてまいります。

意見の概要		市の考え方
	進行管理は遅様な気がする。もっとスピードが必要と思う。	ビジョンの推進にあたっては、極力速やかな理解の浸透や実態の把握に努めるとともに、各指標については、その途中経過についても確認・評価を行い、随時情報提供してまいります。2020 年を待たずに目標を達成した指標については上方修正してまいります。
	進行管理について、ビジョンの見直し 2020 年や 2050 年目標となっているが、もっと短い（3～5 年サイクルで）見直しや進捗状況を確認・評価した方が良いと思う	
資料編		
愛知目標との関連について（1 件）		
	国や北海道庁とどのような連携を図っていくべきかといった視点がまったくない。さっぽろビジョンを推進することによって、愛知目標や国家戦略のどの部分にどのようなに貢献していくのかといった視点をもっと意識して書きこむべきである。	国や北海道、他の自治体との連携については、第 2 章「対象区域」及び第 5 章「各主体の役割」に札幌市の役割として示しています。また、愛知目標との関係については、資料編 102 ページに記載しております。
図表の表記について（2 件）		
	96 ページ、97 ページの表は他の表にない「甲殻類」「植生」などが出ているが、分類の統一は困難か？	「魚類・甲殻類」「植物・植生」として学識経験者への聞き取りを行ったため、分類の統一はできません。
	100 ページのグラフの横軸が大雑把すぎると思う	【修正】 説明文との対応が分かるように、グラフの表記を修正します。
活動団体の紹介について（1 件）		
	既に生物多様性に係わりながら成果を挙げている主体を紹介し、具体的な成功事例等を取り上げてはどうか。	【修正】 パブリックコメントと同期間に行った「NPO 等市民活動団体の活動事例募集」に応募いただいた団体を資料編で紹介いたします。

意見の概要	市の考え方
ビジョン全般	
札幌らしさについて（1件）	
<p>生物多様性さっぽろビジョンには“さっぽろらしさ”が感じられない。「北の生き物と人が輝くまち さっぽろ」を理念に掲げているので、もっとさっぽろらしさのあるまちづくりに特化させた方が、他にはない、特別なまちになるのではないか。</p>	<p>本ビジョンでは、札幌が全国でも有数の大都市であることを踏まえ、札幌市が世界の生物多様性に及ぼす影響について認識し行動するという視点を理念の中に盛り込んでおります。</p> <p>札幌らしいまちづくりに関しては、市民参加型のモニタリング等を通して身近な自然や地域の歴史を見つめ直すことにより、魅力の再発見や創造に活かしていく視点を理念に盛り込んでおります。</p>
読みやすさについて（5件）	
<p>「EMS」など、所々専門用語が使われていて、一般の方が見る為にはわかりやすい文章の方が良い。</p>	<p>【修正】 本編の用語については、資料編に用語集を掲載しておりますので、そちらをご参照ください。概要版については、「EMS」を「環境マネジメントシステム」に修正するなど、分かりやすい表記に努めてまいります。</p> <p>本ビジョンの作成にあたっては、レイアウトを工夫したり、極力写真を掲載するなどして見易さに配慮しています。いただいたご意見は今後の資料作成等の参考とさせていただきます。</p>
<p>なじみのない言葉について説明を載せてほしい。</p>	
<p>グラフなど、一目で見て分かるものを制作したらいい。また、写真を多くした方がいい。</p>	
概要版の修正に係る意見（9件）	
<p>「生物多様性とは」の文章は、概要版では「生物種」に焦点があたっている書きぶりだが、本編のように「つながり」にももう少し着目した方がいいのではないか。生きものが好きな人だけで共有するビジョンではなく、すべての市民がすでに関わっていることであり、そのことを気づき、共有してほしい。</p>	<p>【修正】 ご意見を踏まえ、概要版1ページを修正します。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>生物多様性の必要性、守る意味が分かりにくい。個々の市民が自分ごととしてとらえられるよう、世代や性別、事業者、生活者別にモデルケースを提示する。自らの暮らしにどう関わっているのかを示す。</p> <p>この手法は実行時にも使える。ぼくの、私の生物多様性。を広めることで大切さを生涯意識することにつながると思う。</p>	<p>本ビジョンでは、対象者を限定せず、一般的にライフスタイルが生物多様性に及ぼす影響や生態系サービスの観点から、生物多様性の必要性等を説明していますが、今後の普及啓発等においては、対象者に応じて工夫を行ってまいりたいと考えています。いただいたご意見については今後の取組の参考とさせていただきます。</p>
<p>「生態系サービス」という項目名より、本編の「私たちと生物多様性との関係」の方がよい。生態系サービス、という言葉は、一般市民には誤解を招く。恵みはサービスではなく違和感がある。暮らしを支える生態系、として、図で示せないか。</p> <p>また、「生態系サービス」などの言葉は文中に入れるのではなく、脚注などの方が読みやすいのではないか。(2件)</p>	<p>【修正】</p> <p>本ビジョンでは市民の方々へ分かりやすい表現の使用に努めているところですが、生物多様性に関する理解の促進やその主流化を進めていくにあたっては、「生態系サービス」という言葉についても広めていく必要があると考えております。</p> <p>ただし、この言葉を単独で使用することに関しては、ご指摘のとおり、誤解を招く恐れもあるため、項目名を「私たちと生物多様性の関係」とするなど、概要版(P1)を修正します。</p>
<p>概要版1ページは、本編24ページの図12「3つの多様性」を配置して、「生態系サービス」の写真を除く手法もあるのでは。</p>	<p>概要版1ページでは市民の皆様にも生物多様性と私たちの暮らしが密接に関係していることを理解していただくために、身近な事例の写真を交えて生態系サービスの説明をしております。</p>
<p>「ビジョンの位置づけ」については、むしろ本編10ページの2段落目が、市民が必要としている情報ではないか</p>	<p>【修正】</p> <p>概要版の「ビジョンの位置づけ」について、ご指摘のとおり、全ての行政分野において本ビジョンと整合を図ることを追記します。</p>
<p>概要版4ページの中見出しを「自然環境における現状」、7ページを「社会環境における現状」として、写真の移動、文章の推敲などにより8ページを「自然環境及び社会環境における課題」のみにすると、読みやすいのではないか</p>	<p>【修正】</p> <p>ご意見のとおり、概要版P4、P7の中見出しを修正します。</p>

意見の概要		市の考え方
	カムバックサーモン運動は、行政が思っている以上に、いままさに問題視されている。カムバックサーモン運動自体は悪くなかったが、その余波として、いまだに戻すことだけで、遺伝子を考えずに、ロシアのイトウ、道北のイトウの卵を豊平川に放流し続けていることが問題になっている。無用な反発を招かないよう、絶対に削除すべきと思う。	<p>【修正】</p> <p>本ビジョンでは、人間活動の影響で姿を消した生物種を人間の手で蘇らせた実例として、カムバックサーモン運動の事例を紹介しています。</p> <p>サケの放流に関しては、同水系河川で生まれた稚魚を放流しており、国内外来種等の繁殖拡大という懸念はないものと認識しています。</p> <p>ただし、遺伝的攪乱対策について、本書ではP41に詳しく記載していますが、概要版では、レイアウトの都合上、十分な記述が行えないため、誤解を招くことのないよう、ご指摘の箇所を削除します。</p>
	「各ゾーンの特徴」6ページは、「ゾーンの設定」3ページのすぐ後にある方が、全体の流れがわかりやすいのではないかと（本編は問題を感じないが、概要版では情報が錯綜している感がある。）	<p>【修正】</p> <p>ご意見のとおり、概要版 P6「各ゾーンの特徴」を P3「ゾーンの設定」の後に移動します。</p>

生物多様性さっぽろビジョン（案）の実施段階に係る意見

施策の展開・行動計画	
複合的な施策の推進（1件）	
<p>ビジョン策定後、4つの施策の柱を具体的アクションに落とし込んでいく際には、縦割りや狭い範囲で考えるのではなく、施策を複合的に考えてほしい。全体的な効果（複合的な効果）を常に念頭におくことが重要。</p> <p>（例）学校を利用し、生き物の場の保全や創出を行い、教育の中で活用することにより、施策の柱1と3の双方に対して、より効果が増すと考える。特に学校の場合はある地域に一定の数があり、それらを繋げてネットワーク化も可能と考える。</p>	<p>ご意見のとおり、1つの取組の中でも、実施方法を工夫することにより、複合的な効果が得られると認識しており、P69表6においても、そのような視点で取組例を紹介しております。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

意見の概要	市の考え方
行動計画の作成（４件）	
<p>ビジョン策定後は、市民や活動団体、事業者との協働により、具体的に行動するための実効性のある行動計画を作ってほしい。（３件）</p>	<p>行動計画の策定については、ビジョン策定後、札幌市全体の取組状況やビジョン全体の進捗状況を定期的に確認していく中で、効果的な取組や課題などを検証し、検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>早急に現状の把握、野生動物とのトラブルと対策、共存の在り方の具体的な指針を出してほしい。数字的に説得力がないと、とくに産業界には概念が伝わりにくい。</p>	
具体的事業の提案（１件）	
<p>札幌市の各ゾーンに散らばる生物多様性回復を目指す有志（子供からお年寄りまで）に参画を呼びかけ、各主体が住んでいる身近な場所での生物多様性回復に向けたアクション等を公募し、例えば生物多様性国家戦略の短期的目標（2020年）を評価年とする成果の競い合いを行い、専門家の審査に基づいて参加した主体を表彰するような企画を立ち上げてはどうか。</p>	<p>各主体が住んでいる身近な場所での活動は、生物多様性保全に欠かせない基礎であるとともに、地域の魅力の向上や行動実践のモチベーションにもつながると考えております。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
保全行動（３件）	
<p>生物多様性は、農業と林業を守っていくことが大事と思う。</p>	<p>一次産業の振興や地域固有の生態系の保全、外来種対策などの取組については、本市としましても、生物多様性の保全において重要な視点と認識しております。</p> <p>また、市内に存在するさまざまな生態系は、各地域の歴史の中で形づくられてきたものであり、私たちのライフスタイルも深く関わっていると考えております。</p> <p>ビジョンの推進にあたっては、ライフスタイルの見直しも含め、さまざまな角度から多様な主体との連携を図るとともに、個々の施策を展開していく中で効果的な取組を検討・推進してまいりたいと考えております。</p>
<p>低地ゾーンでは、特に湿地の保全に取り組んでほしい。</p>	
<p>外来種、特に行政が意図的に導入したものは、過去の失敗をすなおに認めて正すべき。札幌市が要注意外来生物に指定されているニセアカシアを札幌市の玄関である駅前通りに街路樹として再び植えたことは、一部の外来種が生物多様性に及ぼす影響が強いと訴える絶好の教育的機会を失ったと残念に思う。</p>	

意見の概要	市の考え方
教育・普及啓発	
理解・関心の喚起（7件）	
<p>生物多様性や環境保護に対する市民の興味関心が低い。もっと生物とふれあう機会や活動の内容を知ってもらうなど、市民に興味をもってもらい、問題について考えるような工夫や訴えかけが必要。（4件）</p>	<p>今後、生き物調査などの市民参加型プログラムや、NPO等と連携した生物多様性モデル事業の実施、ワークショップの開催などにより積極的な情報提供や、生物とふれあう機会の創出に努めてまいります。</p>
<p>今後、小・中・高校の学校レベルでの取り組み、イベントや市内の生物調査等の紹介をしてほしい。</p>	<p>今後予定している普及啓発事業を実施していく中で、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>
<p>現状の科学技術では解明されていない事が多いと考えられるため、一方向の意見を取り上げる事なく、正・反の意見を比較できる様に、また、市民自身が考え行動する資料を公開していくことが肝心と考える。</p>	
<p>札幌の豊かな生物相をどの様な方法でアピールし、市民との関わり、生態との位置づけを考えていくか具体的提示が必要。大学の先生も積極的に参加してもらおうと良い。</p>	<p>市民参加型のモニタリング調査や生物多様性マップの作成など、今後展開する施策の中で、各大学との連携について検討してまいります。</p>
子ども達への教育（4件）	
<p>現在の子供達（幼児～児童）に、今回の生物多様性さっぽろビジョンに関する教育を施していけば、10年後には自動的に生物多様性への意識が高い市民が増加するものと考ええる。</p>	<p>将来を担う子供たちへの教育については、本市としても重要と考えており、自然とふれあう機会を増やすことをはじめ、体験型の学習や環境教育、普及啓発などに、教育委員会など関係機関と連携して取り組んでまいります。</p>
<p>生物多様性の理解は、子供達が主役になるべき。子供が関われば、親も一緒に理解が深まると思う。既存の子供達向けの自然観察活動をベースに対象を広げる形で勉強会や体験会等開催ができればよい。</p>	<p>また、地域に密着した活動の促進に向けて、子ども会も含めて町内会などの地域コミュニティと連携して取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>いただいたご意見に関しては、今後の参考とさせていただきます。</p>

意見の概要		市の考え方
	<p>生物多様性の保全を持続可能にするためには、それを担う人々が持続可能でなければならず、私立、国立も含めて、市内の幼稚園～大学との協力が不可欠である。札幌の全学校にどう働きかけていくか、検討してほしい。家庭教育にかかわっては、札幌市PTA 協議会への協力要請をしてはどうか。社会教育にかかわっては、町内会が生物多様保全についても重要な役割を果たしうる。町内会との協力を携わっている部局との調整が必要である。</p>	同上
	<p>子どもの教育が大事と常に強調されるが、理想だけを教えても響かない。具体的な施策をたとえば、国産の木材を使用しやすくするしくみ、将来助成金がなくても成り立つような林業を紹介し、身近な材料を使い続けることが、多様な生き物を育む環境の土台づくりにつながることを示したほうが大人を含め、教育的効果も大きい。</p>	<p>身近な具体例を取り上げて自らの行動と生物多様性との関わりを伝えることの効果や重要性については、本市としても認識しており、本ビジョンにおいても、地産地消や環境配慮商品の利用に関して、F S Cなどの具体例を示しているところです。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
権力者の理解（1件）		
	<p>議員、産業界のトップなどの権力者の理解を特に求めたい。</p>	<p>本ビジョンにおいては、札幌市議会での意見も踏まえ、今回の案を取りまとめたところであり、今後は、本ビジョンを基に各事業者や団体とも連携を図りながら事業を実施してまいります。</p>
具体的な啓発方法の提案（3件）		
	<p>老朽化してきている西岡公園管理事務所を生物多様性の周知のための拠点として整備してほしい。日頃から多くのボランティア達が関わっている公園なので、周知拠点となりハード面が強化されればより一層活発な活動が行えるようになる。</p>	<p>本市では、さまざまな主体や施設などにおいて生物多様性の保全に関わる活動が行われてきており、これらの活動と連携、協働を図りながら、取組を推進していきたいと考えております。また西岡公園管理事務所につきましては、老朽化や耐震性などの問題から、公園での市民活動や情報発信の拠点などの機能を併せ持つ管理事務所として建替えの検討を始めたところです。</p>

意見の概要		市の考え方
	<p>「生物多様性」は「地球温暖化」など比べて馴染みが薄く、身近な生活とのつながりが想起されにくい。また、本編は多くの人が読まない、読みこなせない。</p> <p>市民・事業者・行政がこの「ビジョン」を共有していくためには情報発信の質、つまり、市民向けの広報物にあたる「概要版」のわかりやすさが他の環境分野の主題に比べてきわめて重要と考える。(2件)</p>	<p>ご意見のとおり、生物多様性という概念はなかなか認知されづらいものであることは本市としても認識しているところです。</p> <p>概要版には、本編の理解促進や読み手の拡大等の目的があり、その作成にあたっては、写真や図を多用し、難解な単語をなるべく使用しない等、読みやすさに配慮しながら検討を進めてまいります。</p>
市民参加型モニタリング・生物多様性マップ		
マップの利用目的に応じた作成方法の提案(1件)		
	<p>マップづくりは、成果をどのように利用するのかによって作成プロセスが異なる。</p> <p>市民の情報共有ツールであれば、各種 GIS データからオーソライズする方法やスポット的に作成されたビオトープタイプマップも有効だと思う。</p> <p>市民参加で認識の共有と醸成を目的とするのなら、違ったアプローチが設定できるが、精度は望めないなので、他の計画やアクションに発展的に用いる場合は注意が必要。</p>	<p>科学的知見やデータの充実を市民参加型で推進していく際には、普及啓発と情報蓄積の視点をもって取り組んでいくことを考えております。ご指摘のとおり、施策の展開に用いる際にはデータの取り扱いに十分配慮いたします。</p>
地域住民が参加できる仕組み(2件)		
	<p>生物多様性のマップ作成は大いに賛同する。これによって、身近な自然の変化もわかるような仕組みにしてほしい。重要なのは市街地ゾーン。一人一人ができる観察など、市民が常に参加できるようなシステムを構築し、札幌市全体のエリアに係る生物が把握できるようなマップにしてほしい。</p>	<p>2011 年度に実施した自然環境等基礎調査では、データの分布に偏りがあり、市街地におけるモニタリングが課題と認識しています。また、地域の資源や特徴を再発見・創造し、まちづくりに活かしていく観点からも、市街地における取組は重要と考えております。いただいたご意見を参考に、継続的に誰もが参加できる市民参加型の活動プログラムを大学等と連携して検討してまいります。</p>

意見の概要		市の考え方
	札幌の生物種を1つずつ整理し、どこにどのような種が生息していることを把握することが必要。そして基礎データを、地域の住民や観光客でも使いやすいように加工し、活用できるようにしてはどうか。	今後、市民の皆様とともに、大学等との連携を図りながら、モニタリング調査や分析等の事業に取り組んでまいります。 今回いただいたご意見は、現在取組を検討している、生き物調査や生物多様性マップの作成などの事業を実施していく際の参考とさせていただきます。
マップの運用・管理（2件）		
	科学的なデータの蓄積は常に継続していかなければならないが、そのデータの運用、公表のしかたは、個別な議論が必要で、行政、NPO、科学者との連携、協同がとくに重要である。生物多様性マップをどのように作り、その結果どのような指標のもとに環境を整えていくのか、何を目標にするのか、課題は大きいと思う。特に特定外来生物、要注意外来生物の量的な侵略のデータが少ないので、早急にまとめて、その対策をどうするのか、かなりリーダーシップをもって、迅速に対応していく必要がある。	生物多様性マップの作成については、継続的にモニタリングを実施してまいります。 また、関係機関等との連携や情報共有に努めるとともに、様々な主体の意見を踏まえながら、マップの点検や更新を行い、施策の展開に活かしてまいりたいと考えております。 なお、これらに用いる資料は科学性や根拠等の信頼性を十分に加味するとともに、公表の際には細心の注意を払って使用します。
	このマップづくりは一度作ったらおしまいではなく、定期的なチェックが必要。予算化を確実に、また、国、道、他の自治体との連携、情報交換を綿密に、マップづくりに協同してとりくむことで、より有意義なデータがあつまり、有意義に利用可能となる。ただし、希少種の生息公表は慎重にしてほしい。またこれまでのデータをうまく利用してほしい。	生物多様性マップの作成については、継続的にモニタリングを実施してまいります。 また、関係機関等との連携や情報共有に努めるとともに、様々な主体の意見を踏まえながら、マップの点検や更新を行ってまいりたいと考えております。なお、これらに用いる資料は科学性や根拠等の信頼性を十分に加味するとともに、公表の際には細心の注意を払って使用します。

意見の概要	市の考え方
推進体制	
庁内連携の強化（５件）	
<p>連携する為には、札幌市内の連携の強化も大切である。</p>	<p>本ビジョンは、札幌市として初めて策定する生物多様性の保全に関する基本指針であり、</p>
<p>～人類存亡の危機～と表題に書きながら、中身は危機感がない。既存の計画に提示されていることとほとんど変わらない。このビジョンをだれが利用するのか。行政活動の基本的な概念として、行政職員、政治家、市民すべてに憲法のような強いビジョンでなければ、意味がないと思う。まず、市役所内の横のつながりの強化を、部局をまたいだ政策決定を行動で示してほしい。</p>	<p>今後は、あらゆる行政分野において、本ビジョンに基づいて、生物多様性配慮の視点を持ちながら施策を展開してまいります。そのために、札幌市環境マネジメントシステムの活用などにより、各分野における取組状況を確認しながら、市役所全体で効果的な取組の推進を図ってまいります。</p>
<p>本方針策定については、市で包括されている他の法令とも整合性を取ることであり、経済発展に向けた開発等を行う際など全ての開発等に対して共通する考え方の土台となり、各機関を繋ぐ横の連携が出来るものになることに期待する。</p>	
<p>ビジョンの位置づけについて、札幌市のすべての施策の上位になるよう全ての部局が整合性を持って進めてほしい（２件）</p>	
研究・教育普及施設の活用や専任職員の配置（２件）	
<p>生物多様性に関係する研究・教育普及施設（博物館活動センター、円山動物園、北方自然教育園、豊平川さけ科学館）が、市の大局的な政策の下で、真に有機的に結びつき、活動成果や人的な交流を進め、調査研究・教育普及活動の質がさらに向上すれば、よりいっそう札幌の豊かな生物多様性の活用に役立つものとする。これらの施設の成果を、今回のビジョンにおいて活用することも検討すべきではないか。ぜひともこれらの施設の専門性を生かした、メリハリのある施策をお願いする。</p>	<p>本ビジョンでは、「生物多様性活動拠点ネットワーク」の構築を第５章表７「重点的に進める取組」に掲げており、今後、生物多様性保全に関連する市内の施設をネットワーク化し、各施設が保有している地域情報や専門知識の共有・蓄積を図るとともに、活動団体と市民のマッチングなど、地域における活動拠点としての機能を拡充することで多様な主体の参加と連携を図るための仕組み作りを検討してまいります。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組の参考とさせていただきます。</p>

意見の概要		市の考え方
	専任職員、無理なら、外部アドバイザーを専任として、ビジョンの意思が継承されていくシステムを作り上げてほしい。それが一番のポイントだと思う。	本ビジョンは、札幌市として初めて策定する生物多様性の保全に関する基本指針であり、今後は、札幌市環境マネジメントシステムの活用などにより、本ビジョンに基づいて、市役所全体で取組の推進を図ってまいります。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。
多様な主体の連携（5件）		
	札幌市が中心となって議論の場を設定し、情報や経験、技術を共有し、連携して活動できる関係性を築くことが必要。 1年ごとに情報を整理し報告する場を設ける、協議会をつくるなど、各主体が参加でき透明性のある意思決定や合意形成が重要。（3件）	本ビジョンの策定にあたっては、アンケートやワールドカフェなどにより、市民や事業者などの意見の反映に努めてまいりました。今後も、様々な普及啓発等による関心の喚起やワークショップの開催などにより、各主体の連携のための体制づくりに努めながら施策を展開してまいります。
	外部との連携には資金と札幌市のしっかりとした情報開示が必要。札幌市の援助金制度の強化、仲介人を置いて寄付金を送れるといった窓口を設ける、生物多様性に関する市民向けのイベント等を実施するなど。	活動団体や事業者の支援については、資金・資材の提供、情報・技術の提供、活動の場や機会の提供など、さまざまな方法があり、本市では、これまで、さぽーとほっと基金やさっぽろエコメンバー登録制度、緑の協定制度、環境プラザの運営などの施策を進めてきているところです。今後は、これら既存の取組を活用するとともに、生き物調査などの市民参加型プログラムの開発や、活動拠点ネットワークの構築などにより、更なる活動の支援や連携の強化を図ってまいりたいと考えております。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。

意見の概要		市の考え方
	<p>具体的かつ明確な活動を、関係する行政部局、諸事業者、諸団体に呼び掛けることが重要。例えば、生物多様性条約事務局が全世界に呼び掛けている「グリーンウエーブ」の活動について、積極的に参加を呼びかけたり、今年札幌市を中心として行われることになっている「学校林・遊遊の森」全国子どもサミットについて、情報を提供するなど、折に触れて札幌市が参加を呼び掛けることによってリーダーシップを発揮することが重要。</p>	<p>ご意見のとおり、具体的かつ明確な活動の提示と呼びかけは、庁内関係部局を含め、多様な主体の参加と連携の促進に効果的と考えております。</p> <p>いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
まちづくり		
生物多様性を活かしたまちづくり（４件）		
	<p>札幌市は、大都市でありながら、身近に多くの自然や天然記念物もあることから、これらを減らさないよう、経済発展と教育的環境、生活環境、自然環境等を両立し、発展出来る都市を証明することで、「生き物と人が輝くまち」という、ブランド化された都市になることを市民として期待している。</p>	<p>生物多様性の保全に取り組むことは、身の回りの自然と、それを形づくってきた歴史や文化などを見つめ直すことであり、地域色豊かな自然や文化を守り育てることにつながると考えております。</p> <p>このことから、本ビジョンでは、地域の資源を再発見、創造し、魅力ある札幌を将来に引き継いでいくことを理念に掲げているところです。</p> <p>今後は、多様な主体の連携の下、市民参加型のモニタリング調査や生物多様性マップの作成などの取組を通して、地域の個性を把握してまいりたいと考えております。</p> <p>いただいたご意見は、今後施策を展開していく上での参考とさせていただきます。</p>
	<p>住民が参加でき、住民同士や、住民と観光客をつなぐ体制があると地域が一体となったまちづくりができると思う。（例えば、住民参加型の生物調査や、地域のボランティアに観光地の案内をしてもらうエコツアーリズムなど）</p>	
	<p>札幌特有の環境を活かし、都市に多様な生物種が生息していることを札幌の個性とする。</p> <p>その個性を発揮し伸ばしてゆくことで、札幌を他のまちとは違う独自性を持ったユニークな地域として、変えていくことができるのではないかと。</p>	

意見の概要		市の考え方
	生態系の多様性の中で、「明治以降の計画的開発」当時としては極当然であったと考えられるが、今後の在り方として考え直す必要はないのだろうか。	同上
ライフスタイルの見直し		
ライフスタイルに対する認識（3件）		
「第4章」に書いてあるように、私たちが出来る事を早い段階で多く実践していくことが必要。札幌にふさわしいライフスタイルを、環境あつての活動という意識をもって実践していけたらいいと思う。	本ビジョンでは、札幌市が一大消費都市であることを踏まえ、ライフスタイルの見直しを重要な視点の一つとして、検討を進めてきました。	
生物多様性の維持は、古来先人たちが（特に北海道ではアイヌの人たちが）教えられてきたこと。新しいことでも難しいことでもない。あらためて、生物多様性の危機を訴えなければならなくなったのは、近世の人間活動がそれらをないがしろにして多様な生き物が生き続けることが不可能な環境にしてしまい、様々な災いとなってわが身にかえてきたからにほかならない。	また、生物多様性の喪失は、人類の存亡にも関わる地球規模の環境問題という認識を踏まえ、「私たちが今すぐに始めるべき行動」として、第5章にライフスタイルの見直しに向けた具体的な行動例を記載しているところです。	
基本は、「当たり前のことば当たり前」と考える。	第5章に挙げた行動例については、「省資源・省エネルギー」や「地産地消」など、これまでも地球温暖化対策やごみ減量などで取り組まれてきたものもありますが、今後は、生物多様性の観点からもこれらの行動の実践を呼びかけ、生物多様性に配慮したライフスタイルが、より広く定着するよう努めてまいります。	
行動の実践に向けた提案（3件）		
不況の下では事業者も市民も環境に配慮する余裕もなく、コストに注目しがち。地産地消、環境配慮商品の利用が事業者と消費者にとって利益となるようにすれば現状が改善すると思う。	生物多様性に関する取組は、さまざまな主体が無理なく継続的に取り組んでいけることが大事と考えております。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。	

意見の概要		市の考え方
	ライフスタイルの見直しとして、公共機関や公共施設などのLED使用を呼び掛けたら良い。	本市の環境マネジメントシステムの取組の1つであるグリーン購入にて、LED照明の購入について取組みを進めているところです。今後は札幌市環境マネジメントシステムとも連動しながら生物多様性保全の取組を推進してまいります（P76）。
	わずかな種類の家畜や作物によって食糧が賅われているという実態は、細菌等によって一瞬にして損なわれるリスクがある。広範囲にわたる環境条件に適應する品種改良の賜物であることは否定しない。地にあった多様な（ある程度の経済性を無視した市民が支える）食料の確保が必要と考える。	ご意見のとおり、野生生物だけでなく、家畜や作物などにおいても、多様性を確保することは重要です。本ビジョンにおいても地域固有の伝統品種を守り育てることの重要性について記載しております（P33）。
その他		
札幌市がビジョンを策定することに対する評価（3件）		
	札幌市という190万人が暮らす大都市でありながら、自然と都市の両面を持ちそれを維持発展させていくための未来の姿（目標）やビジョンとして方針を出したことについては、全国に向けての大きなアピールであり、賛成する。 各部局を横断して語れる、政策立案時に参考にできるものとして、今回の指針作成の動きは一市民として歓迎する。（3件）	今後は本ビジョンを生物多様性保全の基本指針とし、様々な主体との連携を重視しながら施策を展開して参ります。
感想（2件）		
	外来種の動物は飼い主が手放して増えたのがわかったが、外来種の植物はどのようにして増殖したのかが気になった。	オオハンゴンソウやセイヨウタンポポ、牧草類等の外来植物は、観賞用や食用として導入されたものが主に花壇や圃場等から逸出し定着しました。
	ライフスタイルの見直しの例として、食品廃棄物を減らすため、中学校では食べ残しのフードリサイクルをしていた。	「食」は、生物多様性の恵みや問題を理解しやすい身近な事例と考えており、今後の普及啓発等においても、さまざまな形で身近な具体的事例を取り上げ、生物多様性との関わりを考えていただく機会や情報を提供してまいります。

意見の概要	市の考え方
<p>その他（２件）</p>	
<p>パブコメの反映が具体的にどのようになされたか、ビジョンが策定されたら提示してほしい。</p>	<p>パブコメ意見の概要、意見に対する市の考え方、及びビジョンの修正案に関しては、札幌市公式ホームページ等で公表いたします。</p>
<p>ホームページのPDF ファイルのダウンロードを全部一括で見れるようにしてほしい</p>	<p>ファイル容量が非常に大きいため、全部一括は困難ですが、極力容易に閲覧していただけるようにいたします。</p>

意見に基づくビジョン案の修正点

No.	章	頁	該当部分	修正前	修正後																																																															
1	1	5	第1章 1 生物多様性とは コラムの説明文	-	<u>生物多様性がもたらす恩恵は、生態系サービスと呼ばれます。私たち人間はこれらの恩恵を受けることで、豊かな日常生活を送ることができるのです。</u>																																																															
2	1	5	第1章 1 生物多様性とは 「生活の安全を支えます」の写真についての説明文	奥定山溪の <u>緑のダム</u> （写真4枚目の説明文）	奥定山溪の「 <u>水源の森</u> 」																																																															
3	1	8	第1章 3 理念 箇条書きの2つ目	・都市が世界の生物多様性に与えている影響を認識し、生物多様性に配慮したライフスタイルを実践します	・札幌が北海道や世界の生物多様性に与えている影響を認識し、生物多様性に配慮したライフスタイルを実践します。																																																															
4	3	30	第3章 1 自然環境 (2) 生物多様性 表3「札幌市の動植物の種数」	<p style="text-align: center;">表3 札幌の動植物の種数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th colspan="2">全確認種数</th> <th colspan="2">希少種数</th> <th colspan="2">外来種数</th> </tr> <tr> <th>：</th> <th>：</th> <th>：</th> <th>：</th> <th>：</th> <th>：</th> <th>：</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>両生類・爬虫類</td> <td>13</td> <td>1</td> <td>8%</td> <td>4</td> <td>31%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>：</td> <td>：</td> <td>：</td> <td>：</td> <td>：</td> <td>：</td> <td>：</td> </tr> </tbody> </table>	種類	全確認種数		希少種数		外来種数		：	：	：	：	：	：	：	両生類・爬虫類	13	1	8%	4	31%		：	：	：	：	：	：	：	<p style="text-align: center;">表3 札幌市の動植物の種数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th colspan="2">全確認種数</th> <th colspan="2">希少種数</th> <th colspan="2">外来種数</th> </tr> <tr> <th>：</th> <th>：</th> <th>：</th> <th>：</th> <th>：</th> <th>：</th> <th>：</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>爬虫類</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>0%</td> <td>2</td> <td>25%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>20%</td> <td>2</td> <td>40%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>：</td> <td>：</td> <td>：</td> <td>：</td> <td>：</td> <td>：</td> <td>：</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">P89 も同様</p>	種類	全確認種数		希少種数		外来種数		：	：	：	：	：	：	：	爬虫類	8	0	0%	2	25%		両生類	5	1	20%	2	40%		：	：	：	：	：	：	：
種類	全確認種数		希少種数		外来種数																																																															
：	：	：	：	：	：	：																																																														
両生類・爬虫類	13	1	8%	4	31%																																																															
：	：	：	：	：	：	：																																																														
種類	全確認種数		希少種数		外来種数																																																															
：	：	：	：	：	：	：																																																														
爬虫類	8	0	0%	2	25%																																																															
両生類	5	1	20%	2	40%																																																															
：	：	：	：	：	：	：																																																														
5	4	57	第4章 3 施策の方向性 4つの施策の柱	生物多様性 <u>保全の実践活動</u> に皆で取り組む	生物多様性の <u>保全</u> に皆で取り組む																																																															
6	4	63	第4章 3 施策の方向性 施策の柱3「継承する」 施策の方向性4「歴史的文化的資産の継承」	生物多様性を賢く使ってきた伝統的知恵や、地域性豊かな景観、文化の保全・創造に努め、札幌の魅力力向上につながる歴史的文化的資産として、将来に引き継ぐ。	<u>北海道の自然に密着して育まれてきたアイヌ文化をはじめ、生物多様性を賢く使ってきた伝統的知恵や、地域性豊かな景観、文化の保全・創造に努め、札幌の魅力力向上につながる歴史的文化的資産として、将来に引き継ぐ。</u>																																																															

No.	章	頁	該当部分	修正前	修正後
7	5	72	第5章 1 本ビジョンの進め方 (2)ライフスタイルの見直し 「その他の行動のヒント」	<u>その他の行動のヒント</u>	<u>伝統や歴史などから学ぶ行動のヒント</u>
8	4	64	第4章 3 施策の方向性 施策の柱4「活用する」 施策の方向性2「環境に配慮した消費行動の推進」	札幌市内や道内の、より身近な農林資源を積極的に利用するとともに、地球規模の視点に立った持続可能な消費行動を推進する。	<u>市民・事業者・札幌市の全ての主体が、札幌市内や道内の、より身近な農林資源を積極的に利用するとともに、地球規模の視点に立った持続可能な消費行動を推進する。</u>
9	4	66	第4章 3 施策の方向性 図29「ビジョンの体系図」	曲線矢印（体系図中）	直線矢印（体系図中）
10	5	70	第5章 1 本ビジョンの進め方 (1)自然環境の保全 市民参加型活動プログラムに関する説明文	具体的には、保全活動の基礎となる生物多様性マップの作成に向けて、大学など関係機関と連携して地域特性を代表する拠点や指標種を選定し、市民参加型の活動プログラムとしてモニタリング方法を開発・実践することで、普及啓発を兼ねたデータ収集に取り組みます。 (P70 7行目)	具体的には、保全活動の基礎となる生物多様性マップの作成に向けて、大学など関係機関と連携して地域特性を代表する拠点や指標種を選定し、 <u>子どもから大人まで誰もが参加できる市民参加型の活動プログラムとしてモニタリング方法を開発・実践することで、町内会などとも連携を図りながら、普及啓発を兼ねたデータ収集に取り組みます。</u> （P70 7行目）

No.	章	頁	該当部分	修正前	修正後
11	5	72	第5章 1 本ビジョンの進め方 (2)ライフスタイルの見直し 「身近な自然や生き物とのふれあい」の説明文	自然とのふれあいを通して、生命の尊さやつながりを感じ、自然に対する感謝の念を抱く感性を磨くとともに、 <u>身近な自然や生き物を知り、地域や家族などで話し合うことで、生物多様性に対する理解を深め、地域の魅力を再発見するきっかけになります。</u> （P72 15行目）	自然とのふれあいを通して、生命の尊さやつながりを感じ、自然に対する感謝の念を抱く感性を磨くことは、 <u>日々の暮らしの中でも、市街地を含む身近な自然や生き物に対する興味や関心につながるとともに、地域住民や家庭などの対話の活性化及び生物多様性に対する理解の促進に寄与し、地域の魅力を再発見・創造するきっかけになると考えられます。</u> （P70 15行目）
12	資料編	100	資料編 5 自然環境等基礎調査資料 「市民団体の活動状況調査」各団体の活動上の課題に関するグラフ		
13	資料編	104	資料編9 市内の関連施設及びNPO等の活動事例 ※新規ページ	-	ビジョンP104 参照（市内の生物多様性関連施設位置図）
14	資料編	105	資料編 9 市内の関連施設及びNPO等の活動事例 ※新規ページ	-	ビジョンP105 参照（市内の生物多様性関連施設）
15	資料編	105	資料編 9 市内の関連施設及びNPO等の活動事例 ※新規ページ	-	ビジョンP105 参照（NPO等市内活動団体の活動事例）

概要版の修正内容

No.	章	頁	該当部分	修正前	修正後
1	1	1	「生物多様性とは」の 説明文	<u>生物多様性とは、地球上の生き物の種の間</u> にさまざまな違いが存在すること（種の多様性）、またそれらの種が持つ <u>遺伝子にさまざまな違いが存在すること（生態系の多様性）</u> 、そして、 <u>環境と生き物の相互作用で形成されるさまざまな生態系が存在すること（生態系の多様性）</u> をいいます。	<u>地球上には、知られているだけで約 175 万種、未知のものも含めると 3,000 万種とも推定される生き物が地域の歴史や環境に応じて存在しており、これらの生き物は、互いにつながりあって生きています。生物多様性とは、これらのすべての生き物の間に違いがあることをいいます。</u>
2	3	5 (4)	「3つの多様性」の 説明文	札幌市の生物多様性の現状を「 <u>3つの多様性（生態系、種、遺伝子）</u> 」から見てみましょう。	<u>生物多様性は、生態系、種（種間）、遺伝子（種内）の3つのレベルで捉えられます。札幌市の生物多様性の現状をこれら3つの多様性から見てみましょう。</u>
3	1	1	「生物多様性とは」内 の見出し	<u>生態系サービス</u>	<u>私たちと生物多様性の関係 ー生態系サービスー</u>
4	2	2	「ビジョンの位置づけ」 の説明文	本ビジョンは、生物多様性基本法第13条に基づく地域戦略として策定します。 <u>また、札幌市環境基本計画の個別計画としても位置づけられます。</u>	本ビジョンは、生物多様性基本法第13条に基づく地域戦略として策定します。 <u>生物多様性の取組は、生活や事業活動のあらゆる場面に関わるため、すべての行政分野において、本ビジョンの主旨を尊重して生物多様性の保全及び持続可能な利用への配慮に努めることとし、本ビジョンとの整合を図るものとし</u> ます。
5	2 (3)	4 (6)	「各ゾーンの特徴」 ※ページ移動	-	P6 の内容を P4 へ移動
6	3	5 (4)	「自然環境」の見出し	自然環境	<u>自然環境における現状</u>

() 内の数字はパブリックコメント開始時点での資料ページ数

No.	章	頁	該当部分	修正前	修正後
7	3	7	「社会環境」の見出し	社会環境	社会環境における現状
8	3	6 (5)	「種の多様性」の説明 文	過去の例では、 <u>豊平川のサケが一 時姿を消しましたが、カムバック サーモン運動による稚魚の放流や 水質の回復などにより再びその姿 が見られるようになり、今では、 自然産卵による野生のサケも安定 的に見られます。</u>	(削除)
9	3	6 (5)	「種の多様性」の説明 文	<p>・・・</p> <p>北海道の外来種リスト（北海道ブルーリスト 2010）では、道内にいる外来種について、国内移入種も含めて 860 種を挙げています。札幌市では、そのうち 365 種が確認されています。<u>このうち、外来生物法で指定されている特定外来生物としては、動物ではアライグマ、ミンク、セイヨウオオマルハナバチなど、植物ではオオハンゴンソウ、オオキンケイギク、オオフサモが挙げられます。</u></p>	<p>・・・</p> <p>北海道の外来種リスト（北海道ブルーリスト 2010）では、道内にいる外来種について、国内移入種も含めて 860 種を挙げており、札幌市では、そのうち 365 種が確認されています。<u>これらの外来種の中には、農作物や家畜、ペットなどのように私たちの生活に欠かせないものもいる一方、在来生物を駆逐し生態系に被害を及ぼす侵略的外来種もいます。侵略的外来種については、「入れない・捨てない・拡げない」という予防 3 原則や外来生物法に基づき、被害を防ぐことが重要です。外来生物法で指定されている特定外来生物のうち、札幌市で確認されているものとしては、動物ではアライグマ、ミンク、セイヨウオオマルハナバチなど、植物ではオオハンゴンソウ、オオキンケイギク、オオフサモが挙げられます。</u></p>

() 内の数字はパブリックコメント開始時点での資料ページ数

No.	章	頁	該当部分	修正前	修正後
10	4	11	「施策の柱2 協働する」	生物多様性保全の <u>実践行動</u> に皆で取り組む	生物多様性の <u>保全</u> に皆で取り組む
11	4	11	「施策の柱3 継承する」	<u>EMS</u> による取組	<u>環境マネジメントシステム</u> による取組
12	4	12	「本ビジョンの体系図」	曲線矢印（体系図中）	直線矢印（体系図中）
13	5	13	「自然環境の保全」の 説明文	具体的には、保全活動の基礎となる生物多様性マップの作成に向けて、大学など関係機関と連携して地域特性を代表する拠点や指標種を選定し、市民参加型の活動プログラムとしてモニタリング方法を開発・実践することで、普及啓発を兼ねたデータ収集に取り組まます。	具体的には、保全活動の基礎となる生物多様性マップの作成に向けて、大学など関係機関と連携して地域特性を代表する拠点や指標種を選定し、市民参加型の活動プログラムとしてモニタリング方法を開発・実践することで、 <u>子どもから大人まで多くの市民の参加の下、町内会などとも連携を図りながら、普及啓発を兼ねたデータ収集に取り組まます。</u>

本書に関するお問い合わせ先

札幌市環境局環境都市推進部環境対策課（環境共生推進担当）

〒060-8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目

電話 011-211-2879 FAX 011-218-5108

市政等資料番号

01-G02-12-1671